

和泉

内実はどこもかく、最
も元気のよかった和泉
地区ではあるが、最近
は全く精彩を欠いている。和泉地
区全共闘の組織的活動はほとんど
行なわれておらず、代表者会議
籌備、シボなどには無縁である。泊
り込みの学生も、当初一〇〇名近
くいたがこのところ約三〇名と激
減した。本部も多くて七、八人、
少ない時は二、三人。わずかに電
話の交換が細々と行なわれてい
る。

このように地区全共闘として実
体がなくなるとは、フント同士
の内ゲバの直後から。それまでヘ
ゲモニーを標榜していたフント系の
学生がプッツリいなくなった。従
ってクラスからの集り方がなくな
く、活動家中心の法、政経、経産
学部は白々しく、各闘争部の部屋

機動隊に起されて

があるだけ。わずかに文藝部が泊
り込みなど、とどこかできている
が、最も機動隊の多い又闘争す
横のつながりが欠け、クラス単位
で活動している状態である。その
一例が機動隊の捜査の時である
去る十六日、和泉校舎二号館、
学館、邸舎センターが捜査された
が、正門のバリケードが撤去され
お陰で泊り込みが不安である「

そのようになって、全然気がな
った。しかも朝の七時。
この時、一号館には三二人が泊
り込んでいた。内ゲバに關係ある
フント系の学生は二日間に渡りた
が、クラス闘争のノンセクト学
生は右往左往。ケツサクなのは、
機動隊に起された学生――。
バリストに突入して以来、和泉
学生の約五パーセント。

しかし、これさえもましてあ
る。クラスは討議さえはなされてい
ないクラスが多い。
組織的活動が行なわれておらず
騒がせる学生もごく少ない状況に
あつた各闘争部も、バリケードが
自衛的止する危険性が潜してい
る。小山民的な闘争を至での生活
慣れ合いの維持。ひどいクラスは
夏休中は闘争中絶を宣言してい
る。

しかしながら、これは徐々に絶
闘争に耐えるべく自衛が始まり
つつある。専攻別に本校との結び
付きを強め、情勢把握と理論強化
する闘争部、部外オルブに専念す
るクラス。長く闘争の楽しい旅
闘争部は来たためへへ、より一層困
窮な闘争の道を歩んで、今も開始
しつつある。(K)